

## Book Review

### 最近、読んだ本・・・五十嵐博一



■ **マラソン1年生/たかぎなおこ 著**  
「このコーナーでマンガを取り上げるなんて!」と、お叱りを受けるかもしれませんが、敢えてご紹介させていただきます。

少し前に、暇つぶしがてらに入った書店で「ローカル線で温泉ひとりたび」というコミックエッセイを手にとったのが、今回紹介

する本の著者、たかぎなおこさんとの出会いでした。その後、彼女の作風に魅かれて、立て続けに“たかぎなおこ本”を買い漁ったのですが、その中の1冊が今回ご紹介する「マラソン1年生」です。

フリーのイラストレーターである著者が、運動不足を自覚してジョギングを始めるのですが、最初は、ほんの少し走るだけで息を切らせてバテてしまいます。それどころか、30分間のウォーキングすらできません。それから、ジョギングの入門書を読んでみたり、友達と一緒に走ってみた

りしながら、少しずつ走る距離を延ばして行く中で、フルマラソンへのチャレンジを決意します。最終目標をホノルルマラソンに定め、半年間のマラソンチャレンジ計画を立て、専門家の指導も受け、日々、一步一步、確実に実力をアップしていく様子が、コミカルに描かれています。そしてついに、ホノルルマラソンに出場し、完走を果たします。

未経験者でも、1年足らずでここまで成長するのかと感心しましたし、特に気負うこともなく、素直な気持ちで努力を継続し、少しずつ課題をクリアしていく姿には心を動かされました。同時に、①目標を持つこと、②計画を立てること、③日々の小さな努力を継続すること、④仲間を持つこと、⑤良き指導者を持つこと、という5つが、いかに大切であるかを改めて痛感しました。

女性向けに書かれた手軽なコミックエッセイではありませんが、私にとっては学ぶべき点の多い1冊でした。

■ 発行元/メディアファクトリー

■ A5判 176頁 = 1,155円 (税込)

### 最近、読んだ本・・・向野元昭, 小畑晴治



■ **建築家ブルーノ・タウト**  
/ 田中辰明, 柚本玲 共著

2007年9月のLLB技術研究会の見学と講演会で、UR都市機構の技研を見せてもらいました。そのとき、深尾精一先生の「集合住宅の歴史」の基調講演の中で、「ブルーノ・タウトは、日本では桂離宮の紹介で有名で、‘侘び寂びの人’のイメージが強いが、ジードルングなどカラフルな集合住宅を数多く手がけた近代建築家です。」ということを知りました。また、2009年4月に目黒区美術館で、「上野伊三郎とリチ コレクション展」のガイドをしました。その際に、ナチに睨まれて1933年に国外脱出を図っていたタウトを日本に招き、敦賀についた翌日の5月4日のタウトの誕生日に、桂離宮を案内したのが、他ならぬ上野伊三郎だと知りました。

著者の田中辰明氏は1965年早稲田大学建築の大学院を出られて、大林組入社、技研にて環境工学の研究に活躍されています。1971年から1973年までベルリン工科大学へ留学され、その時来訪された武基雄教授の縁でタウトに関心をもち調査を続け、最近タウトの旧自邸の保存に尽力されています。現在、お茶の水大学名誉教授で、

SIユニットの普及や外断熱工法の推進にご活躍です。

タウトは、日本に来る前の1920年代に多くの集合住宅を設計し、それがいまでも多数の人々に誇りを持って使われ続け、その中の4件が世界遺産に登録されたようです。同じころ日本では、同潤会アパートが建てられて同じように勤労者階級の居住環境の改善に役立っていましたが、そのほとんどのものが建替えられました。

著者田中辰明氏の、ドイツ留学体験を踏まえたブルーノ・タウト論は、独特の視点を持った大変興味深い読み物になっています。タウトの先見性についても、自動車社会を予見してそれとの共存を計っていること、中庭の活用と造園家とのコラボレーション、鉄道駅のいわゆる駅中商店街の嚆矢であるとの指摘などユニークなものが多いと感じました。(向野元昭)

田中辰明先生には、外断熱工法の開発時代からご助言を頂きましたが、タウトにかくも造詣が深いことは存じませんでした。タウトのジードルングの素晴らしさはドイツの集合住宅の中でも格別のように、1920年代のブリッツが今もよくメンテされ満足度が高く「世界遺産」になったことや、英国のコミュニティ・アーキテクト、Iカフーン氏が絶賛していることでも判ります。(小畑晴治)

■ 発行元/オーム社

■ A5判 203頁 = 2,625円 (税込)